



# アセアン・レポート

2017年8月号

## 《今月号のメニュー》

- ◆ 今月のシンガポルトピックス  
「発展するシンガポール国際空港」
- ◆ 今月のバンコクトピックス  
「カンボジアの現状」

千葉銀行

シンガポール駐在員事務所

バンコク駐在員事務所

# 今月のシンガポールトピックス

## 発展するシンガポール国際空港

シンガポールの国際空港である「チャンギ空港」はハブ空港として世界的にも高い評価を受けている空港で、現在もターミナル拡大など、更なる発展を続けています。

今回のシンガポールトピックスでは、シンガポール国際空港についてレポートしてまいります。

### 1. 歴史

1965年のシンガポール建国当時は「パヤレバ空港」がシンガポールの国際空港でした。同空港は1955年に開港された滑走路1本、旅客ターミナルも1つの小さな空港です。

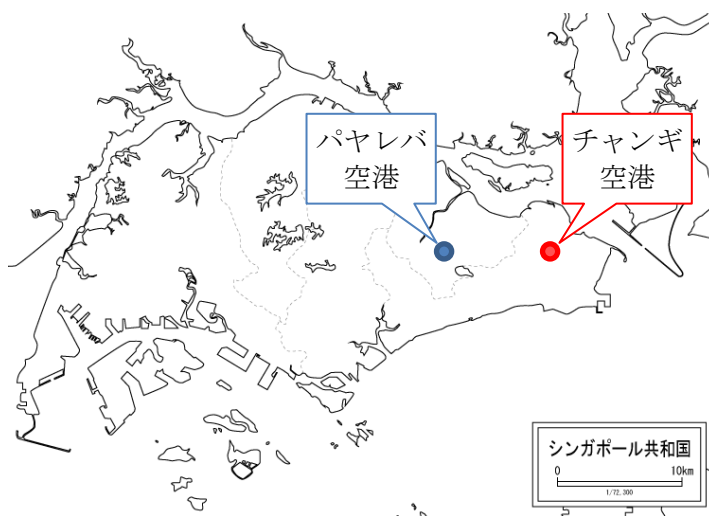
1970年代に入り旅客数の大幅増加を受け、政府はパヤレバ空港の再開発を決定したものの、1973年のオイルショックをきっかけに計画を見直すこととなりました。

その後、政府はパヤレバ空港周辺は将来的に都市化が期待されるとして同空港の再開発を断念し、1975年当時のチャンギ空軍基地を新たに民間空港として開設することとしました。これが現在の「チャンギ空港」です。

チャンギ空港は軍用施設としての歴史が長く、第二次世界大戦中は大日本帝国軍海軍基地、戦後は英国空軍基地、その後1968年からはシンガポール空軍基地として利用されていましたが、1981年に民間空港へと生まれ変わりました。

チャンギ空港の建設では、52平方キロメートルに及ぶ土地の整地及び埋立が行われました。また、当初の投資額は13億シンガポールドル（約1053億円）と、シンガポール史上最大のプロジェクトとなりました。

なお、パヤレバ空港はその後軍用施設となり、現在もパヤレバ空軍基地として利用されています。



## 2. 現状の利用状況と評価

現在、チャンギ空港からは世界約 90 カ国・地域、380 都市へのアクセスが可能です。発着便数は週 7,000 便以上で、約 90 秒に 1 回の割合で離着陸が行われていると言われています。

また、今年 5 月にはチャンギ空港利用者が 1981 年の開港から累計で 10 億人を突破しました。同空港の年間利用旅客数は 1994 年には 2,000 万人、2004 年は 3,000 万人、2010 年に 4,000 万人と順調に増加を続け、2012 年には 5,000 万人を突破しました。その後もさらに増加を続け、2016 年には過去最高の 5,780 万人となりました。さらに、貨物取扱量も年々増加を続けており、2016 年には 197 万トンとこちらも過去最高を記録しています。

航空分野の市場調査を行う英国「スカイトラックス」社の世界空港ランキングでは、チャンギ空港が 5 年連続でトップに輝いており、世界で高い評価を受けていることが分かります。

2017 年世界空港ランキング

| 順位 | 空港名        | 国・地域   | 順位 | 空港名       | 国・地域 |
|----|------------|--------|----|-----------|------|
| 1  | チャンギ空港     | シンガポール | 6  | ハマド国際空港   | カタール |
| 2  | 東京国際空港（羽田） | 日本     | 7  | 中部国際空港    | 日本   |
| 3  | 仁川国際空港     | 韓国     | 8  | チューリヒ空港   | スイス  |
| 4  | ミュンヘン空港    | ドイツ    | 9  | ヒースロー空港   | イギリス |
| 5  | 香港国際空港     | 香港     | 10 | フランクフルト空港 | ドイツ  |

（出所：スカイトラックス社）

## 3. ターミナルの拡大

開港当初の 1981 年、チャンギ空港へ乗り入れる航空会社はわずか 34 社でしたが、現在では約 120 社に拡大しています。また、年間利用旅客数も 2017 年には 6,000 万人に達する見込みで、過去最高を更新すると期待されています。

このようにチャンギ空港は年々利用が拡大しており、その旅客対応能力増強のため、ターミナルを拡大しています。

現在、第 4 ターミナルの建設が完工しており、年内にも利用開始となる予定です。また、第 1 ターミナル拡張工事と第 5 ターミナル建設工事が行われています。詳細は次のとおりです。

### (1) 第1ターミナル拡張工事

出発ロビーの改修として、既存チェックインカウンターの取替及びチェックインカウンター2列の新設を実施します。また、2カ所の手荷物受取所を新たに設置するとともに、手荷物受取所の全自動化へ向けた改良工事を行います。

なお、ターミナルの拡張工事に合わせ隣接した商業・娯楽施設及び宿泊施設の建設が行われており、単なる空港を超えた総合施設になろうとしています。（詳細は後述「4. 今後の展望」参照）

### (2) 第4ターミナル新設工事

第4ターミナルの床面積は225,000㎡、小型機専用の駐機場17カ所、大型機用の駐機場4カ所を備えます。また、最大処理旅客数は1,600万人にのぼり、飲食店など80店舗余りが入居する予定で、既存ターミナルの混雑緩和が期待されています。

また、第4ターミナルでは、チャンギ空港で初めて導入される顔認証システムを使い、チェックイン、手荷物預入、出国審査、旅客機搭乗が全てセルフ・自動式で行われる予定で、オペレーションの効率化と安全性の強化が図られます。

### (3) 第5ターミナル新設工事

第5ターミナルは、既存施設の東側にあるチャンギ・イーストと呼ばれる埋立地に新滑走路と共に建設される予定で、2026年の完工を目指しています。また、第5ターミナルには、2019～2024年にかけて新たに営業を開始する鉄道2路線（トムソン・イーストコースト線とクロス・アイランド線）の接続が計画されており、空港から市街地へのアクセスがさらに向上すると期待されています。

第4・5ターミナルが完成すると、空港全体の処理可能旅客数は年間で1億3,500万人と現在の2倍以上に増強されます。

## 4. 今後の展望

第1ターミナルの隣には2019年開業予定のドーム型総合商業・娯楽施設「ジュエル」を建設中で、2019年に開業する予定です。ジュエルは地上5階・地下5階建で、300店舗以上の小売・飲食店が入居するほか、宿泊施設も整備される予定です。





デザインは、世界的に有名な建築家のモシェ・サフディ氏によるもので、特徴的なドーム型デザインをはじめ、高さ 40 メートルの屋内では世界最大の人口滝が流れ、ガーデンシティの名を持つシンガポールならではの緑豊かな施設になる予定です。

(出所：JEWEL CHANGI AIRPORT ホームページ)

空港の様々な拡張工事に伴い、空港周辺の様子も変化しています。既存の滑走路とターミナルがある区画を分断していた道路（チャンギ・コースト・ロード）が閉鎖され、代わりに第 5 ターミナルを囲む形で新しい道路が建設されています。また、新たな道路にはサイクリングロードも併設される予定です。

## 5. おわりに

チャンギ空港はハブ空港としてだけでなく、観光立国としてのシンガポールの地位を支える役割を果たしています。シンガポール政府観光局は、観光振興だけでなく多数の集客を見込むビジネスイベント（展示会、商談会、コンサート等の各種イベント）の開催・誘致に力を入れており、空港との連携をさらに深めていくとしています。

千葉銀行シンガポール駐在員事務所は、今後も、シンガポールを初めとした ASEAN 地域の様々な情報をご提供してまいります。お気軽にご相談ください。

# 今月のバンコクトピックス

## 「カンボジアの現状」

1970年代から約20年間続いた内戦により、マイナスイメージが強かったカンボジアですが、縫製業を中心とした製造業と観光業が中心となり、2011年以降、7%以上の高い経済成長を維持しています。

今月のバンコクトピックスでは、「カンボジア」の現状についてみてまいります。

### 1. ASEAN 諸国との比較とカンボジアの産業構造

ASEAN加盟国等の国力比較（2016年ベース）

| 国名     | 名目GDP<br>(億ドル) | 一人あたり<br>GDP (ドル) | 実質GDP<br>成長率 (%) | 人口<br>(百万人) | 面積<br>(km <sup>2</sup> ) |
|--------|----------------|-------------------|------------------|-------------|--------------------------|
| 中国     | 112,183        | 8,113             | 6.7              | 1,383.0     | 960万                     |
| 日本     | 49,386         | 38,917            | 1.0              | 127.0       | 38万                      |
| インドネシア | 9,324          | 3,604             | 5.0              | 259.0       | 189万                     |
| タイ     | 4,069          | 5,899             | 3.2              | 69.0        | 51万                      |
| マレーシア  | 2,964          | 9,360             | 4.2              | 32.0        | 33万                      |
| シンガポール | 2,970          | 52,961            | 2.0              | 6.0         | 716                      |
| フィリピン  | 3,047          | 2,924             | 6.8              | 104.0       | 30万                      |
| ベトナム   | 2,013          | 2,173             | 6.2              | 93.0        | 33万                      |
| ミャンマー  | 663            | 1,269             | 6.3              | 52.0        | 68万                      |
| ブルネイ   | 112            | 26,424            | -3.2             | 0.4         | 5,765                    |
| カンボジア  | 194            | 1,230             | 7.0              | 16.0        | 18万                      |
| ラオス    | 138            | 1,925             | 6.9              | 7.0         | 24万                      |

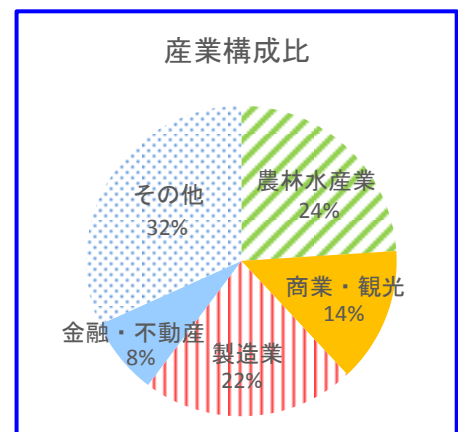
注：一部、IMF推計値 出所：ASEAN Statistical YearBook

カンボジアをASEAN加盟国（計10カ国）の中で比較すると、名目GDPは下から3番目、一人あたりGDPは最下位、人口7位、面積8位と、各項目において下位に位置していますが、実質GDP成長率は7.0%と加盟国の中でもトップクラスです。

1991年のパリ和平協定により内戦が終結し、ASEANへの加盟（1999年）や世界貿易機構（WTO）への加盟（2004年）を経て経済が安定し始めました。外資企業による本格的な投資が始まってから10年強に過ぎないことを考慮すると、カンボジアは急速な経済成長を遂げているといえるでしょう。

また国連は、カンボジアの労働力人口は2070年まで、総人口も2080年まで増え続けると予測しており、高齢化による人口減が問題となっている日本やタイに比べ、カンボジアの労働力や消費力は大きな魅力といえます。

産業別にみると、1990年代に農林水産業が実質GDPの5割を占め、とくに米作を中心とした農業への依存



度が高い状況にありました。しかし、近年では農林水産業の構成比は 2 割強まで低下しています。

製造業は外国からの投資による縫製・製靴産業を中心に発展しました。近年では海外から自動車部品や電子部品メーカーが進出、組み立てなどの生産工程を請け負う会社が増加し、製造業の構成比は農林水産業と同程度のシェアまで達しました。

また、世界遺産アンコールワットへの観光客の増加とともに、観光業を中心としたサービス業の比重も高まっています。

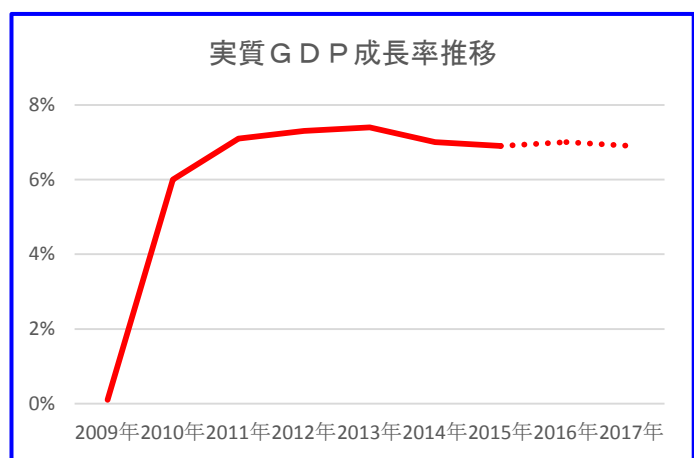
## 2. 経済成長

カンボジア経済は、2004 年から 2007 年の 4 年間二桁成長が続きました。その後、2009 年に世界的な経済危機の影響を受け一旦成長率は急低下したものの、2010 年以降に急回復、2013 年には+7.4%に達しました。

2014、2015 年は観光客数の伸び鈍化等を受けて経済成長が幾分減速しましたが、依然として 7%前後を維持しています。とくに、首都プノンペン近郊では、不動産開発ブームが起きており、商業ビルやコンドミニアムの建設ラッシュが起きています。

また、イオンモール(株)は 2014 年に大型ショッピングモールを首都プノンペンに开店し、店内は多くの買い物客で賑わっています。さらに 2018 年には 2 号店も开店予定となっており、堅調な経済成長を背景としてとくに都市部の所得水準が上昇していることが窺われます。

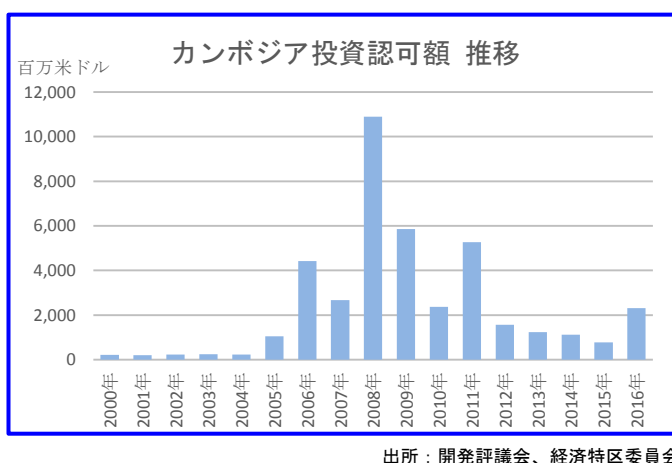
国際通貨基金（IMF）は、今後の成長率について 2016 年は+7.0%、2017 年は+6.9%と予測しており、縫製品輸出や建設、民間消費の拡大が経済を牽引する一方、観光客の伸び鈍化や農作物の不作等が経済成長の頭を押さえると分析しています。



### 3. 海外からの投資

カンボジアへの投資は、①安い人件費、②比較的緩い外資規制（ほぼ全ての業種で外資 100% 出資企業の設立可）、③地理的優位性（タイ・ベトナムと隣接）等を背景に、2000 年代後半から急増しました。

しかし 2012 年以降、投資は幾分減少しています。この背景には、①円安進行による日系企業進出の減少、②人件費の上昇と労働争議の多発化、等が挙げられます。



なお、2016 年の投資認可の内訳をみると、業種別ではインフラ・不動産開発、縫製業向けが中心となり、投資国では日本と中国の 2 カ国が全体の 65% を占めています。

日本からの投資について金額ベースでは、経済特区に入居している縫製業、電子部品製造業、自動車部品製造業向けの投資が大半を占めます。件数では、飲食業、コンサルティング業等のサービス業向けの投資が顕著となっています。

### 4. 政治情勢

1970 年代から約 20 年間続いた内戦は、1991 年のパリ和平協定により終結しました。1993 年には憲法が制定され、シアヌーク国王が即位するとともに、新政権が発足しました。フン・セン現首相は同年より 32 年間の長期にわたり政権を担っていますが、国民からは、独裁的な政治手法や、政権内で蔓延る汚職に対する不満が高まってきており、与党 人民党と最大野党 救国党の対立も深まっています。

2017 年 6 月には、5 年に 1 度の地方選挙が実施され、与党が大きく議席を減らす一方で野党 救国党が躍進しました。来年には国政選挙の実施が予定されていますが、救国党は最低賃金の引き上げを主張しており、選挙結果次第では、割安な人件費に強みをもつカンボジア経済に影響を与える可能性もあります。

### 5. おわりに

カンボジアは、海外からの投資を糧として急速な成長を遂げています。人件費上昇などのマイナス要因もありますがタイや周辺国と連携した広域サプライチェーンの形成が進展すれば、さらなる成長の可能性も高まります。バンコク駐在員事務所では、カンボジアの情勢について随時、情報を発信してまいります。



## タイ砂糖税導入

【タイ】

タイ財務省は、今年9月に「砂糖税」を導入することを検討しています。

砂糖税は、糖分が多く含まれている飲料水向けの税金で、100mlに含まれる砂糖量を10～14%未満、14～18%未満、18%以上の3段階に分け、最大20%の税率が課されます。

現在タイでは、缶やペットボトルの緑茶飲料とコーヒー飲料は、国内の原料生産保護を目的として物品税が免除されており、フルーツ・野菜を使用した飲料についても果汁10%以上のものは物品税\*はかかりません。しかし、砂糖税が導入された場合は、これらの飲料も課税対象となります。

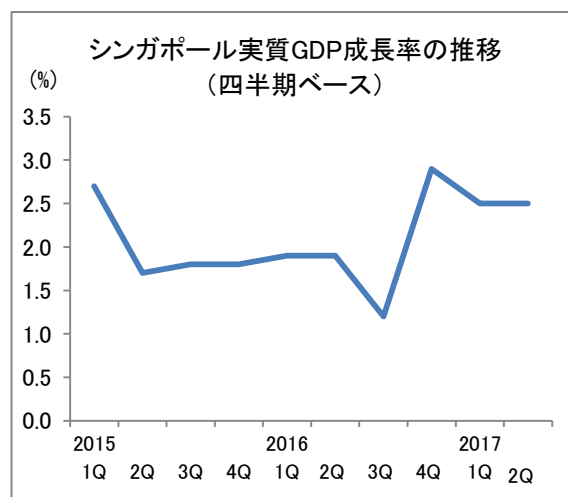
ちなみに、欧米では同様の税金を「ソーダ税」という名前で導入している国もあります。フランスでは2011年に導入され、砂糖入り飲料1缶に対し0.11ユーロ（約1円）が課税されています。

※特定の物品の販売に対してかかる税金であり出荷時に課税される。ノンアルコール飲料は最大25%課税される。

## シンガポール第2四半期 GDP 発表

【シンガポール】

シンガポール通産省は7月14日、2017年第2四半期（4-6月期）のGDP（速報値）が前年同期比2.5%増だったと発表しました。シンガポール通貨庁（MAS）が民間エコノミストを対象に実施した事前調査では、大方が2.7%増と予想しており、予想からは若干下回ったものの、前期（2017年第1四半期（1-3月期））と同水準を維持しました。上半期（1-6月期）全体の成長率も2.5%増となり、通年で2.0%増を超える可能性が一段と高まりました。



業種別にみると、製造業が前年同期比8.0%増と前期、前々期に引続き全体の成長を牽引しました。特に、半導体や半導体製造装置の輸出需要の拡大を背景に、電子製品、精密エンジニアリングにおける成長率が製造業及び全体の成長維持に貢献しました。

シンガポール通産省は2017年の成長率予想を1.0～3.0%増としていますが、5月に1-3月期のGDP統計の改定値を発表した際、「下振れリスクが顕在化しなければ2.0%増を上回る可能性が高い」との見方を示しています。

## お知らせ

千葉銀行シンガポール駐在員事務所及びバンコク駐在員事務所では、アセアン地域への進出等を全面的にサポートしております。

現地法人設立の手続きやオフィス・工場物件のご紹介、税制等の情報、販路・調達先のご紹介など、幅広いサービスを提供させて頂いておりますので、弊行お取引店を通じ、お気軽にご相談ください。

以 上

※ここに掲載されているデータや資料は、情報提供のみを目的としたもので、投資勧誘等を目的としたものではありません。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

※また、弊行は、かかる情報の正確性や妥当性については、責任を負うものではありません。

本レポートに関するお問い合わせは、千葉銀行 市場営業部 海外支店統括グループ  
(Tel : 03-3270-8526、e-mail : kaigai\_tokatsu@chibabank.co.jp) までお願いいたします。

《出典》

NNA、時事通信、各種新聞報道